



news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
[URL] <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2023年4月13日

報道関係各位

延べ179団体を支援

北海道の水辺の環境保全を「い・ろ・は・す天然水 540mlPET」が応援

「北海道 e-水（イーミズ）プロジェクト」

2023 年度支援団体決定

キックオフミーティングをオンラインにて開催

北海道コカ・コーラボトリング株式会社（本社：札幌市清田区 代表取締役社長：佐々木康行）は、2023 年 4 月 17 日（月）、本年度の支援団体として採択された 19 団体が活動内容について発表し情報共有するための「2023 年度北海道 e-水プロジェクト キックオフミーティング」を下記の通りオンライン開催いたしますので、ご案内申し上げます。

「北海道 e-水プロジェクト」は、2009 年 11 月、北海道と当社との間で締結した「環境保全に関するパートナーシップ協定」に基づき、北海道の豊かで美しい「水」を中心とした自然環境を守り次世代へと引き継いでいくことを目的とし、北海道、公益財団法人北海道環境財団、当社の三者協働で取り組むプロジェクトです。



北海道 e-水プロジェクト



当社が販売する北海道の天然水「い・ろ・は・す天然水 540mlPET」の売上の一部を（公財）北海道環境財団に寄付し、道内各地域で水辺の環境保全活動に取り組む団体および流域ネットワークの活動を支援するもので、2023 年度で 14 年目を迎え、これまでの支援団体数は本年度含むと延べ 179 団体となります。

【2023 年度北海道 e-水プロジェクト キックオフミーティング 概要】

日時	2023 年 4 月 17 日（月） 14:00～16:10
開催方法	オンライン開催（後日 You Tube にて配信）
You Tube アクセス 方法	北海道 e-水プロジェクトホームページからアクセスしてください。（後日アップ予定） <北海道 e-水プロジェクトのホームページ> https://www.heco-spc.or.jp/emizu/index.html
内容	2023 年度採択団体が活動内容を発表：e-水コース（上限 200 万円）7 団体 ※しずくコース（上限 10 万円）12 団体については、事務局がまとめて報告する予定です。 ※各団体の詳細については別紙をご参照ください。
主催	北海道、公益財団法人北海道環境財団、北海道コカ・コーラボトリング株式会社

■ 2023年度 支援団体（敬称略、順不同）

- 対象となる事業：道内の水辺（川、海、湖沼など）において環境保全活動を行う非営利の団体（または流域ネットワーク）が行う事業。

<例> 水辺のプラスチックごみ等に関する啓蒙活動や清掃活動、水辺の多様性保全・希少種保護、水環境保全につながる植樹、学習・体験会、水質浄化など

- 対象となる期間：2023年4月1日～2023年11月30日に実施される事業

<e-水コース（上限200万円）>

NO	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	大沼ラムサール協議会	自走式アオコ・漂流ゴミ回収ロボの開発と回収物の処理と活用	ラムサール条約登録湿地「大沼」（七飯町）	多くの湖沼では、アオコ発生による生活環境と生態系の悪化、さらにはマイクロプラスチックの元となる漂流ゴミの問題が顕在化している。この活動では、それらの問題を解決するツールとして最近注目を集めている自走式ゴミ回収ロボットを、将来的な普及を目指して地元の小中学生と協力して開発する。実際に、大沼で性能評価を行い、協働パートナーとともに回収物の展示や研究試料への利活用についても検討する。
2	オホーツク魚類研究会	ポータブル魚道をもっと使ってみよう	豊橋川、美幌町民会館、美幌博物館（美幌町）	川の氾濫から橋などの構造物を守るため、川がコンクリートで平らに固めてしまふことがあります。こうした工事によって、川の水の流れは速くなり、水深も極端に浅くなります。その結果、サケなどの大型魚が川を移動することが難しくなりました。本活動では、地域住民とともに、持ち運びできる資材を利用してサケが川の上流に移動できるようにします。
3	一般社団法人 菜子森	田んぼのようちえん「いっぴんま」	江別市	未就学児の親子が対象で、月に1回、田んぼまで体験活動を行います。田植え、田んぼの生き物調べ、稲刈り、脱穀等の田んぼ作業を通して、田んぼってどんなところなのか、どんな生き物がいるのか、いつも食べているごはんがどのようにできているのかを体験により感じてもらうのが目的です。具体的には、裸足や素手で泥遊びしながら畦塗りをする、田んぼに入り生き物を採って観察する、稲の観察等、五感を使って楽しみます。
4	羽幌みんなで作る自然空間協議会	ビオトープ公園「自然空間ままる」の水鳥池再生事業	ビオトープ公園「自然空間ままる」（羽幌町福寿川流域）	ビオトープ公園「自然空間ままる」にある開放水面を生き物でにぎわう空間へと再生するため、水環境の悪化が深刻な水鳥池の排水、浚渫、水路の整備を実施する。地域住民に水環境の保全の大切さを理解してもらうために、浚渫事業を住民と連携して行う他、自然観察会、水質調査、生物調査（水生植物・昆虫）等のイベントを開催する。活動内容は随時、SNSや会報まで公開・発信する。
5	特定非営利活動法人 人まち育てI&I	残そう味わおう！ 湿地の文化と食～スグヱ縄と湿地の恵み料理、環福連携の試み～	道央地域（石狩、空知、後志）	湿地に関わる文化と食を体感して楽しみ、湿地再生活動にも関わる機会を多面的に提供し、湿地の大切さや魅力を知る人を増やすことで、湿地の自然環境と文化を未来に残します。今年も「スグヱを使った縄文化を残す」「エリカンゾウ等の湿地の恵みを美味しく食べて健康になる」をテーマに、昨年の成果を活かして体験会と植物増殖活動を展開します。増殖活動等、福祉・療育・医療分野とつないで行い、「環福連携」を推進していきます。
6	一般社団法人 北海道山女魚を守る会	山女魚の放流と自然環境の保護	石狩川水系、尻別川水系（道央地区）	喜茂別町にある山女魚を守る会所有の孵化場において、山女魚の卵の孵化事業と孵化した稚魚10数万尾の道央地区（石狩川水系、尻別川水系など）10数か所への放流を実施する。放流に際しては、地域の町内会、観光協会、小学校などと協力して、主に子供たちによる放流を通じて、川の子育てや自然保護の大切さや川辺の安全教育の普及などを図る。
7	UWクリーンレイク洞爺湖	洞爺湖G(外来種)サミット開催と湖畔清掃プロジェクト	洞爺湖	①外来生物の専門家を招いたシンポジウムの開催（五箇公一氏と中井克樹氏を予定） 専門家を交えた北海道内でウチダザリガニ防除活動を行っている団体や個人によるワークショップの開催 ②洞爺湖中島周辺及びびげロポイントの清掃活動 ③活動機材の修繕及び機材の更新

<しずくコース（上限 10 万円）>

NO	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク	浜厚真ネイチャー&サーフ ～浜厚真町長杯における湿地の 普及啓発活動～	厚真町浜厚真	サーフの大会である「浜厚真町長杯」にあわせて、浜厚真の自然を紹介するブースを設置し、生き物の解説や自然観察会を行うことで、海岸利用者であるサーファーと地元町民に浜厚真の自然の価値と魅力を伝える。
2	一般社団法人 小樽セーリングクラブ	海から行く、小樽市祝津 ～オタモイ海岸 ビーチクリーン&漂流ゴミ回収	オタモイ海岸 (小樽市祝津)	2021年から実施しているビーチクリーン活動の範囲と内容を拡大し、海岸沿いの陸上側と会場側に分かれて漂着漂流するゴミを回収する。 (通年・一斉) また、今年度からの新たな活動として、回収したゴミを一定期間展示することで活動拠点となるヨット少年団の子供たちや学生を対象に環境保全を目的とした教育を行うとともに漂着ゴミの統計記録を保存する。
3	黒松内ふなの森自然学校 運営協議会	朱太川を未来につなぐプロジェクト ～鮭キャンプを通じて～	朱太川流域 (黒松内町・寿都町)	「黒松内町を流れる朱太川の鮭とのつながりを感じる」をテーマに、1日2日の小学生対象のキャンプを10月に行う。主に鮭との触れ合い、鮭の命をいただき、鮭が遡上する川の環境について学ぶことを目的とする。 活動はカヌーからの鮭の水辺観察や、鮭を調理して食育体験を行う。 この体験をした子どもたちが、未来の子どもたちに、朱太川やそこに棲む生き物と触れ合える場や機会を創出するようになることを目指す。
4	コドモくらす	「もっと水辺de幼稚園」 空にもいるよ水辺の生きもの	旭川市及び近郊	「川は危険だけど楽しいところ」と実感する市民を増やすことを目的とし、幼児や小学生が地域の川で遊びながら学ぶ機会を提供する。 川に住む水生生物はもちろんのこと、川に来る野鳥にも目を向け、生き物が住める環境について考える。さらに水の流れや地形についても実際に触れて感じ、身近な水辺環境と自分たちの暮らしと繋がっているということを子どもたちに伝えたい。
5	認定NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	稚咲内海岸を知ろう!! ～海岸散策と見どころマップ作り～	サロベツ地域(豊盛町、橋延町、天塩町)	稚咲内海岸は様々な海浜植物が生育している貴重な環境で、道路が海岸に沿っており、多くの人々が訪れる観光地である。しかし、海岸にはゴミが見られ、近年では自然環境への悪影響が懸念されている。 本活動では宿泊イベントを開催し、サロベツ地域の子ども達と海岸の海浜植物を観察し、散策マップを作成し公共施設に掲示する。この活動で参加した子ども達や立ち寄った人に稚咲内海岸の自然や環境問題について興味を持ってもらう。
6	十勝川のシシャモを守る会	水質調査、河川の清掃活動	十勝川水系背負川 流域(豊頃町)	水質検査キットにより川の流れの調査を行い水質の変化を確認する。 調査にあわせて流域の清掃活動も行う。
7	特定非営利活動法人 中頓別町まちづくり協議会	頓別川クリーンアップ事業	頓別川及び川辺 (中頓別町)	これまでも行ってきた「頓別川清掃カヌー事業」をさらに多くの住民及びこのまちを応援してくれる他住民の参加を見込んで規模を広げていきたいと考えています。 近年、自然豊かな地域に暮らしていても、河川との付き合いは薄れてきています。川は築堤や橋の上から眺めるだけのものになっているようです。子どもたちも川で遊ぶ機会が減っています。そこで、カヌーを使って川と親しむ活動を通じて、河川に点在するプラゴミや空き缶、ペットボトルなどの回収を行います。自分たちの暮らしから生まれるゴミが河川をとおして海まで運ばれることを知ることは、必ず行動の変化を生み出すものと確信しています。未永く取り組むことを目指して、行政の支援を受けながら今後も取り組んでいきたいと思えます。
8	北海道岩見沢農業高等学校 農業土木工学科農業クラブ	南空知の流域土壌炭素含有率を増加させて 河川生態系の回復を目指す活動	岩見沢市、 三笠市、美幌市	岩見沢市周辺で、流域土壌の腐植を増加させて、水質を改善し、水生生物が生息しやすい環境にする活動を行っています。土壌に炭資材を散布することによって土壌腐植酸を増加させ、土壌の保肥力を増加させることによって、肥料の河川への流入を防ぎます。流入する肥料が減ると河川水の溶存酸素が増加して、魚種や数が増加することも確かめました。今年は私たちがファシリテーターとなって、現地調査などを行う市民講座を実施します。
9	北海道大野農業高等学校	大野川の水質環境調査	大野川周辺 (北斗市内)	7月に外部講師による講演会を1学年対象に実施し、農業と自然環境、水環境の関係を理解する。1学年対象に大野川の水質環境調査を実施し、近隣の高等学校に協力を依頼し、調査手法の指導ならぬ結果についての共同研究を実施し連携を図る。なお、水質調査については、引き続きボランティア部が継続的に取り組み、データを蓄積する。結果については、高文連などの場で発表するとともに、地域社会でもポスター発表などを実施する。

※「しずくコース（上限 10 万円）」つづき

NO	団体名	事業名	活動地域	事業概要
10	北海道自然観察協議会	国際海岸クリーンアップキャンペーンに参加してプラスチックごみと石狩の自然について一緒に考えよう	石狩市 三線浜	石狩浜で自然観察会と清掃活動を行いマイクロプラスチックの調査を実施する
11	安春川たんけんクラブ	安春川を親子で楽しみ・学び・守ろう！	安春川流域 (札幌市北区内)	安春川は、札幌市北区を静かに流れる人工河川です。小さいながらも四季を通じて魅力的な景観で、地域の憩いの場として親しまれ大切に守られてきた水環境のひとつです。その安春川を守る小さな活動として、親子で清掃活動に取組み地域への愛着や社会奉仕の精神を育む機会とします。また、川遊びを通じて水辺に生きる生物を観察したり、外来種問題となっているアメリカザリガニの駆除を通じて、水環境保全を学ぶ機会とします。
12	特定非営利活動法人 Rethink the Nature	川下りで考えるゴミと自然環境問題	空知川流域 (富良野市内)	川下りをしながらゴミ拾いをする事で、ごみの現状と課題を知り、体験を通じて水辺のゴミを減らすために自分たちでできることを考え行動し周囲にも伝えるこまどうしたら良いのか。みんなの環境問題として一緒に考えます。



(昨年度の採択団体活動風景)

当社は、「北の大地とともに」をスローガンに、どさんこ企業として、北海道の魅力をさらに高める活動、地域課題解決への協力、次世代を担う子どもたちに将来の地球の姿を考える場の提供、安全で安心な地域づくりを応援する取り組みなど、事業活動を通して継続的に推進してまいります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・サステナビリティ推進部
担当：伊藤 TEL 011-888-2091



■ 参考 1 活動の源である「い・ろ・は・す 天然水 540mlPET」について

- ▶ 北海道で販売される「い・ろ・は・す 天然水 540mlPET」は当社札幌工場の地下、深さ約 300 メートルの井戸からくみ上げた札幌市清田区南西方向にある白旗山方面から長い年月をかけて深い地下をゆったり流れてきた天然水で、厳しい品質管理を経て皆様にお届けしております。
- ▶ リサイクルペット素材を 100%用いた“100%リサイクルペットボトル”を使うことで、「ペットボトルを資源として循環利用する“ボトル to ボトル”※1」、「石油から新規に製造されるプラスチックの使用を削減※2」、「ペットボトル 1 本あたりの CO₂排出量を 60%削減」の 3 つを実現し、環境に配慮された製品として販売しております。

※1 使用済み PET ボトルを回収・リサイクル処理したうえで、PET ボトルとして再生し、飲料の容器として用いること

※2 一般的な PET ボトルとの比較

■ 参考 2 北海道e-水プロジェクト とは？

- ▶ 北海道には豊かな水資源とそれを取り巻く美しい自然があります。この北海道の恵まれた水とそれを含む自然環境を道民全体で保全し、未来に引き継いでいくため、道民、事業者、行政の協働のもとで地域における水辺の環境保全活動に取り組む事業が「北海道 e-水プロジェクト」です。
- ▶ エコロジーをイメージする「e」と「きれいな水」というイメージを重ね合わせ、「北海道 e-水（イームズ）プロジェクト」と名付けました。

■ 参考 3 累計寄付金額

2008～2021 年 寄付額実績	142,735,490 円	
2022 年 寄付額	10,230,750 円	
寄付額累計	152,966,240 円	内) 北海道 e-水プロジェクト 128,588,45 円

■ 参考 4 「令和元年度 未来へつなぐ！北国のいきもの守りたい賞」受賞（2020 年 1 月）

- ▶ 「北国のいきもの守りたい賞」とは
北海道が 2017 年度に創設した制度で、北海道における生物多様性の保全及び持続可能な利用を推進するために、道内で生物多様性の保全等に関して、優れた活動・模範的な活動を行う企業、団体、個人を表彰するもので、「北海道 e-水プロジェクト」と「白旗山での森づくり」の 2 つの当社活動が表彰されました。
- ▶ 当社活動の評価ポイント
『水を使った製品を製造する会社として、流域や森林、豊かな自然環境から高品質な水が得られるという確固たる 想いを自社商品にこめて、生態系の保全などに取り組む団体をサポートする「北海道 e-水プロジェクト」の仕組みを 評価しました。また、製品の水源である白旗山を活用した環境教育では、関係機関との連携もみられるほか、たくさんの方が参加されています。10 年目を迎えた「北海道 e-水プロジェクト」をはじめ、今後も「水」をテーマとした生態系保全の取組への支援が進化し続けることを期待します。』

(※北海道HPより引用)



(授賞式の様子)



(企業部門 賞状)

■ 参考5 「北海道e-水（イーミズ）プロジェクト」歴代支援団体の活動エリア



2023 年度支援団体は団体名を記載：青字は e-水コース（上限 200 万円）、赤字はしずくコース（上限 10 万円）